

史跡踏査委員会

第四八回夏季県外史跡踏査報告

「古代官衙、匠の技と信長・天下布武への始動

愛知県・岐阜県方面」

湘南高等学校 丸山 理

行程

第一日目（八月二三日）

小田原駅―土岐市（久尻元屋敷窯跡・美濃陶磁歴史館・乙塚古墳）―関市（関鍛冶伝承館・円空館・弥勒寺官衙遺跡群）―宿泊地（関観光ホテル）―鶉飼い見学

第二日目（八月二四日）

宿泊地―美濃町（上有知湊跡・うだつの上がる町並み）―岐阜市（岐阜城天守閣・信長館発掘現場・板垣退助遭難地）―熱田神宮・宝物館―宮の渡し―桶狭間古戦場跡―小田原駅

一 はじめに

今夏の天候不順、地震による東名高速道の路肩崩壊、新型インフルエンザの流行、日曜日出発など波乱含みのスタートであったが、結果的には天候に恵まれて所定の計画通りに踏査が行われ、多くの成果を持ち帰ることができた。特に現地での講師の方々の熱のこもった説明には頭が下がる。今回は張替清司氏（土岐市埋文センター）・佐藤文昭氏（関鍛冶伝承館）・田中弘志氏（関市教育委員会）・篠原英政氏（円空館）・高橋方紀氏（岐阜市教育委員会）・野村辰美氏

（熱田神宮文化研究員）にお世話になった。

二 八月二三日

小田原駅新幹線口を七時四五分に出発し、東名高速道から東海環状道路を経て土岐市に着いたのは一二時過ぎであった。昼食後、張替講師の案内で織部の里公園（写真①）・美濃陶磁歴史館・乙塚古墳等を見学した。土岐地域における焼き物の歴史は七世紀の須恵器にはじまり、その後の断絶期を経て織田信長の美濃支配で尾張から陶工集団が移ってきて最盛期を迎えたという。豊かな森林資源と良質な粘土が焼き物の生産を支えたのである。織部焼きと称される元屋敷遺跡の連房式登り窯（写真②）は一六〇七年頃のもので肥前窯とならび最古の部類に属することが確認されている。整備された公園内には復元された窯が往時を偲ばせていた。乙塚古墳（写真③）は七世紀代の方墳で、美濃エリアにおける方墳の分布から被葬者は評もしくは郡の首長クラスと推定されている。開口している石室には巨大な石が使われていた。

関鍛冶伝承館では、駆け足で見学する我々に寸暇を惜しむように佐藤講師が身振り手振りを交えてわかりやすく、関鍛冶の技を解説してくださった。日本刀には「五か伝」があり、鎌倉時代に成立した山城伝・大和伝・備前伝・相州伝と室町時代成立の美濃（関）伝が著名である（写真④）。一本の刀を刀匠が一人で作るのではなく、研師・鞘師・塗師・柄巻師など多くの職人が分業体制をとっているとのことであった。今度ゆつくりと鑑賞したい施設である。

初日の最終見学地は弥勒寺官衙遺跡群。長良川の流路がほぼ直角に曲がる右岸に古代の郡家と寺院、豪族居館・祭祀遺跡・古墳が一体となって残存する希有な遺跡である。壬申の乱で大海人皇子の舎

人の一人として活躍した身毛（牟義都）君氏の坵地で、七世紀の評の役所から律令期の郡家までの遺構が重層的に発見され、いわゆる品字型の建物配置、総柱の倉庫群が整然と並んでいた。遺跡は埋め戻されていて現在は野原となっていた（写真⑤）が、田中講師が関観光ホテルの会議室においてパワーポイントを使ってビジュアルな解説を行ってくださった。自ら高校教師の経験を持たれ、埋蔵文化財担当者となつてからも、いかに遺跡の保存と活用を図るかに邁進されている姿に一同は深い感銘を覚えた。この地は円空入寂の地でもあり、円空の墓とともに多数の円空仏が残されている。円空館では篠原講師の重厚な解説をいただいた。さて、今回の目玉のひとつに鶉飼の見学がある。宮内庁にも鮎を献上する土地柄で「小瀬の鶉飼い」として有名であり、鶉匠が現地に住まわれている。夕食後、篝火の幻想的なシーンのもと、ひたすら鮎を求める鶉の姿を堪能した（写真⑥）。残念ながら今夏の天候不順で鮎の成長が悪く、小型のため鶉の喉元に引っかかりかからず鮎はすべて鶉の胃袋におさまってしまった。鶉にとつてはめでたいことである。

三 八月二四日

二日目も好天に恵まれた。まず、長良川の川湊「上有知」の景観（写真⑦）を見学し、「うだつの上がる町並み」（美濃伝統的建物保存地区）を歩いた。偶然にも参加者の中に、造り酒屋「小坂家」（写真⑧）と知り合いの方がいて、普段は公開されていない奥の日本庭園まで拝見する幸運に恵まれた。

一〇時少し前、岐阜公園に到着。ロープウェイで金華山に登る。織田信長が「天下布武」印を用い始めた岐阜城である。復元天守閣

より眼下に広がる濃尾平野は信長の進出を支えた豊かな生産力を物語る。遠くには小牧山も見えていた。金華山の麓ではルイス・フロイスの記録に登場する信長館が発掘調査中（写真⑨）で、この機を逃さないため昼食時間を割いて見学を断行した（昼食は仕出し弁当を一括購入して移動バスの中で食べた）。急峻な山の斜面での困難な調査をされている高橋講師に最新の成果を語っていただいた。信長関連の遺跡で、庭園が確認されたのは初めてであるという。遺跡の下層には斉藤氏時代の遺構も眠っているようだ。調査は続いており、まだまだ驚くような成果が期待される。公園内の板垣退助遭難地に建つ銅像（写真⑩）を見て現地を後にした。

一三時、熱田神宮着。明治一年の名古屋博覧会の折に明治天皇の御座所とされた建物（龍影閣）（写真⑪）が敷地内に移築されており、ここで野村講師から神宮の歴史を解説していただいた。神宮本殿は改築中であつたが、真新しい檜の香りが漂っていた。境内の「信長塀」や宝物館も見学した。

一五時、神宮を離れ、東海道の宮の渡し（写真⑫）・桶狭間古戦場を回つたが、現代の開発が進み、おそらくはかつての景観とはほど遠いものとなった印象を受けた。歴史を学ぶ上で、景観や地名などがどんどん失われてゆく様は大きな損失である。

二一時過ぎ、全員無事に小田原駅へ戻った。参加者は三一名であつた。

史跡踏査委員会では夏と秋に史跡踏査を計画・実施しているが、単なる観光ではなく、準備に時間をかけ、学問的裏付けのある講師を依頼し、授業に役立つものを目指しています。事業続行のためにも多くの参加者をお待ちしています。



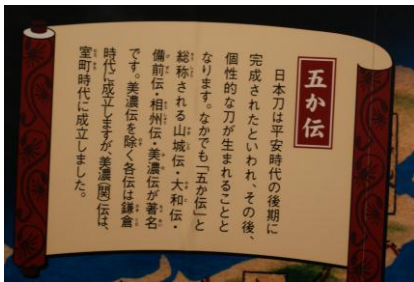
①織部の里公園



②元屋敷窯



③乙塚古墳



④関鍛冶伝承館



⑤弥勒寺官衙遺跡



⑥小瀬の鶴飼い



⑦上有知湊跡



⑧美濃町 小坂酒造



⑨信長館発掘調査地



⑩板垣退助遭難地



⑪熱田神宮 龍影閣



⑫宮の渡し